

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0036号  
護國青年會議 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成19年5月3日

# 恫喝捏造放送局TBSの惚けた謝罪—国民監視を強化せよ!

## 言い訳を謝罪とする腐った体質

消費期限切れの材料をケーキに使用するなどの杜撰な商品管理が発覚し、経営の危機に直面した不二家、自業自得と言えばそれまでだが、従業員やフランチャイズチェーンの経営者の窮状を考えると、パッシングさえしていれば良いということではなく、不二家の再生を監視の意味も込めて見守ることも選択肢の一つであると思う。

支那人や朝鮮人は、墓を掘り返し、平然と死者に鞭打つようなことをするが、これは恩情の欠片も持たない民族の血がなせる業である。しかし日本人は恩情に厚く、傷口に塩を塗るようなまねをする民族ではない。

四面楚歌の中にあつて発言することさえ許されない状況下の不二家に対して、執拗な波状攻撃を仕掛けた、みのもんだがメインキャスターを務めるTBSの『朝ズバツ』が今月十八日の番組の中で、一連の不二家叩きについて報道した。各メディアは一斉に「TBSが謝罪」と報じたが、実際には言い訳に終始した微訂正の域を出ないレベルで、しかも全体的に視聴者数の少ない時間帯の六時台を意図的に狙って行われたもので、TBSの隠蔽体質が窺える。



傷口に塩を塗られたペコちゃん

「朝ズバツ」は、不二家の不祥事が明らかになった一月中旬から畳み掛けるように同社のイメージ悪化を意図したでつち上げ情報を流し続けていたが、番組内で訂正したのは次の三点だけであつた。

「出荷されたチョココレトが賞味期限切れになると再び工場に戻る」とした内容は、証言者が伝聞したもので事実の確証はなかつた。

証言者の不二家勤務は十年以上前のことだつたが、最近のことと誤解されない表現だつた。

「期限切れのチョココレトと牛乳を混ぜ合わせた」とした点で、牛乳と断定したのは正確性を欠いていた。

以上の三点を一読すれば分かるようにTBSは「事実と異なつた」と間違いを認めて訂正しているのではない。「確証がない、正確性を欠いた」という曖昧な表現を用いて捏造を隠蔽しようとしただけで、此処にもTBSの腐った体質が透けて見える。

例えば前記の三例目「期限切れのチョココレトに牛乳を混ぜた」ことは否定しているが、これでは牛乳以外の別の物を混入したと言っているに等しい。

ヤラセの疑いを持たれていない元従業員の証言についてはTBSでは証言者については法律家が面談するなどの調査を致しましたが、ヤラセや捏造に類する疑いはないと報告を受けております」との噴飯ものの弁明をして証言者の発言は事実だと開き直っている。一例目で「証言者が伝聞したもので事実の確証はなかつた」とした直後に事実だと言い切っているのだ。

不二家が社外に設置した「信頼対策回復会議」が問題とされているのはTBSが報道した事実があつたのか、なかつたのかということである。それを法律家に聞いても無意味なこと、証言者と同時期に勤務していた工具やパートに聴き取り調査をすべきであるがTBSは多角的な検証も行わず、御座なりの謝罪もどきで視聴者を煙に巻いただけである。此処にもTBSの腐った



捏造の張本人 TBS社長・井上弘

体質が透けて見える。

**みのもんだの謝罪は一切無し**

不二家の不祥事が明らかになると、間抜けなコメント「ターをとつかえひつかえ呼んで「廃業しろ」」潰れてしまえ」と言いたい放題喚いていた番組のメインキャスターを務めるみのもんだは不二家の主力商品をテーブルに並べて「従業員の方なんか、特に家族の方なんか厳しいことを言われてガツクリきている方もいるんじゃないかと思えます」と述べ「これからは新生なつた不二家ということで応援させていただきますから」と他人事のように、いけしゃあしゃあと云っている。謝罪は一切無しである。

常識人であるならば二つのセンテンスの間には「申し訳ない」の一言があつて然るべきだがそれも無い。捏造したVTRを元に容赦なく罵詈雑言を吐いたことが問題となつているのに謝罪の謝の字も無い。更にみののは「不二家に務めている方のご家族は、辛かつたと思います。その点、私にも良く分かります」と述べ

散散罵倒しておきながら形勢不利と見るや「応援します」「良く分かります」と言つたところで傷ついた従業員や家族の心が癒やされる訳ではない。みのもんだは潔くブラ

ウン管から消え去るべきである。

不一家は放送のあった十八日付で、TBSの謝罪もどきを経営判断に基づき受諾している。屋台骨が大きく揺らいだ不一家がTBSに屈服する形となったのである。しかし「信頼回復対策会議」の議長を務める横浜桐蔭大学の郷原信郎教授は「よっぽど訴訟を起こされなくなかったのだらう。どの部分が誤っていたのか明確にしておらず、中身の無いものだ。訂正放送ではなく訂正謝罪の放送でしかなかった」と苦々しく語っている。

### 頭越しに行われた手打ち

郷原議長は四月二日「モラルを問う」としてTBS社長井上弘に公開質問状を送付している。しかし、それに対して回答を寄せることなく、TBSは郷原議長の頭越しに不一家側との妥協を試みたのである。井上弘から回答文が寄せられた形跡は何処にもなく、郷原議長はつばねに置かれてしまったのである。此処でも都合の悪い相手は黙殺し弱者には徹頭徹尾居高な態度を取るTBSの恫喝体質が露になっている。

無視された形となった郷原議長は「不一家が納得すればそれで良いというものではない。社会は納得しているのか、

本当の戦いはこれからだと思ふ」と熱き思いを語っている。



会見する郷原議長

この問題を通して改めてTBSの異常性に気づいた国民は納得するどころか、その危険性と暴力性を再認識したことだろう。善良な国民は、巨大反日プロパガンダメディアの暴走を何とか食い止めようと願っている。

不一家問題は、あまたあるTBSの悪行の一つにしか過ぎない。反日放送局には社会的制裁を加えて叩き潰さなければならぬ。国民に糾弾され、断末魔の叫び声を上げて滅んで行くことがTBSに相応しい最期である。

TBSや朝日のような反日メディアに対する監視を緩めてはならない。反日メディアは、不一家のような弱体化した企業は脅せても善良な国民を恫喝して黙らせることなど不可能だと思いが良い。

日刊ひぐらし編集人

戸出蒼流

# 祝「昭和の日」

読者諸兄は、既にご存知の通り本年より四月二十九日が「昭和の日」と定められ、「みどりの日」は五月四日へ移行した。これは平成十七年五月十三日に参院本会議で可決された改正祝日法によるものである。

言うまでも無く四月二十九日は「天皇誕生日」であったが、先帝陛下の崩御（昭和六十四年一月七日）を境に、同年以降の四月二十九日は「みどりの日」との名称の祝日となった。そしてこの「みどりの日」が四月二十九日から五月四日へと定められ、本年より晴れて「昭和の日」となったのである。

明治、大正時代に生まれた年代の方々の多くが、日本国民としての誇りを強く持ち、先帝陛下と激動の時代を共にされたと思う。

我々は先帝陛下の幾多の恩恵によって今日の日本が在りこの素晴らしい日本に生まれ育つことができた感謝の念を決して忘れてはならない、祖国を愛する人々が胸を張って「私は日本を愛している」と言える環境作りを務めなければならぬ。国民の一人として今日の佳き日が先帝陛下の御遺徳を次世代に語り継ぐ日となることを願う。

平成十九年四月二十九日

編集人・戸出蒼流

## 「昭和の日」に武蔵野御陵を参拝

日本晴れの青空と目に染みる新緑の中、井之上浄誓白皇社会長率いる護國青年會議の一行五十五名は記念すべき「昭和の日」に武蔵野御陵を参拝して先帝陛下を偲んだ。

未曾有の混乱と激動の昭和を国民と共に歩んでこられ、焦土と化した全国各地を巡幸され、国民に勇気と生きる希望と活力をお与えになられた先帝陛下の御遺徳は、我々護國青年



會議一行の心の中には今もこれからも生き続けていく。約六年半に亘るGHQの占領下の間に、日本人は何を失い何を得たのか、独立主権を回復して以来、どれだけのものを取り戻せたのか、その答が現在の日本の姿に現れていると言えるのではないだろうか。

過去の六十年間において失った最も尊いものは何か、取り戻せなかった最も尊いものは何かと考えるとき、日本が悠久の昔から天皇陛下を中心として成り立ってきたという事実に対する「国民一人一人の意識と記憶」ではないかと思う。この意識と記憶の欠如が「女系天皇容認」などという戯けた論議の基となっているのは言うまでもないことである。

護國青年會議の一行は、激動の日々を経て復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす「昭和の日」に、先帝陛下の陵墓の前で深く静かに頭を垂れて、心からの感謝の念を捧げ、より良い日本を次世代へ引き継ぐことをお誓い申し上げた。静寂が辺りを支配し、多摩丘陵の爽やかな風が流れるだけで、時が止まった瞬間であった。

編集人